



公立西知多総合病院だより

第 21 号(1~3月号)

メディアスチャンネルにて放送中です！

※詳細は裏表紙をご覧ください。



看護局長あいさつ／副院長兼看護局長…P1

医療被ばく低減施設認定を取得しました／放射線技師…P2

新型コロナウイルス感染症と共にある日常への向き合い方について

／呼吸器内科部長…P3, 4

COPD のセルフマネジメントについて／慢性呼吸器疾患看護認定看護師…P5

血液浄化センターについて／臨床工学技士…P6

看護局長あいさつ

副院長兼看護局長 植村 真美



2020年は11年ぶりに台風の上陸がなかった珍しい年であったとのことですが、一方で、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が猛威を振るいました。

私たち病院の職員は今までに経験したことがないこの相手に対し、できる限りの感染対策を講じ、医療を提供し続けてきました。人的・物的不足など様々な困難があり、職員も苦しい日々がありました。

そんな時、ご自身もお困りになると思うのにマスクの寄付や、励ましの手紙、美味しいお弁当やお菓子などを地域の方々が届けて下さいました。皆様の温かく心優しい気持ちに包まれ、本当に救われた思いです。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、知多半島地域を含め、世界中でこの感染症と闘う多くの方々がいらっしゃいます。心よりお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が今後どのような状況になるかは明確ではありませんが、それでも研究や経験から少しずつ知見が増えてきました。私たちは健康を護る専門職として、最新・最善の医療や看護を地域の皆様に提供していきたいと思います。

毎年、季節ごとに病院のエントランスで音楽などのイベントを行っていますが、昨年はなかなか開催できませんでした。職員のハンドベルやピアノ演奏などのかくし芸をご披露できず残念に思っています。

来年は感染対策を講じながら工夫をして、入院生活や外来通院の方々に笑顔になっていただけるような企画を考えたいと思います。楽しみにお待ちください。



医療被ばく低減施設認定を取得しました

放射線科 放射線技師 横山 昌隆



医療被ばく低減施設とは、公益社団法人日本診療放射線技師会より“安心できる放射線診療”を提供していると認定された施設です。当院も2020年3月に「医療被ばく低減施設認定 第117号」として認定されました。2020年6月現在、全国で128施設が認定されています。



「医療被ばく相談」を開始しました

医療の質の向上と、安心できる放射線診療を皆様に提供するために、2019年9月から「医療被ばく相談」を行っています。毎月第2・4水曜日の15時からの予約制です。医療被ばくの専門職である「被ばく相談員」もしくは「放射線管理士」が、放射線検査の内容や医療被ばく線量について、実際の線量等の資料を準備してお答えします。

一般的な放射線被ばくについてのご質問等についても、簡易的ではありますがご予約なしでお答えできますので、ご興味のある方は放射線科受付へお申し出ください。



放射線受付でお配りしています！

当院の平均的な医療被ばく線量を記載したものを、受付でお配りしております。（右図参照）

今後も医療被ばく低減の模範施設として、市民・地域住民の皆さんに安全・安心な放射線診療を提供して参ります。



新型コロナウイルス感染症と共にある 日常への向き合い方について

呼吸器内科部長 長谷川 万里子



2019年12月の中国湖北省武漢市における発生が発端とされる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）。その後、世界中に蔓延し流行するという状況となり、私達の日常生活は一変しました。

このウイルスは、これまでの多くの感染症とは異なり「症状が出る前に周囲に感染させてしまう」という特徴があるために、その感染予防対策をこれまでよりも困難なものにしています。

当初は多くの国で「人と接触しない」という対策（ロックダウン・ステイホーム等）が取られていました。しかし、この方法は感染予防としては確実に有効ながら、実際の私達の社会的生活の中で長期に渡って継続して実行することは困難です。

そこで継続可能な対策として、日本では「新しい生活様式」と命名された生活の仕方が提言されました。「マスク着用、こまめに石鹼で手洗い又はアルコールによる手指消毒、密集・密接・密閉の3つの密を避ける、こまめな換気、毎日の体調管理、接触確認アプリ COCOA の利用」など、今や既に日々皆で取り組んでいるものばかりですね。

しかし残念ながら、気温や湿度低下を背景に、2020年11月頃より諸外国と同様に日本国内でも新型コロナウイルス感染が第三波として再々度拡大しつつあります。

「コロナは風邪のようなもの」という表現を今でも時折見聞きしますが、気を付けて頂きたいのは、コロナは決して「風邪のようなもの」ではないということです。軽症の方は、これまでの一般的な感冒程度の症状で収まるためにそのように誤解されるのでしょうか、成人、特に高齢者や基礎疾患のある方にはインフルエンザよりも死亡率が高い注意すべき感染症です。

現在、世界規模で新型コロナウイルスに対するワクチンの製造や販売の準備が進んでいますが、この新しいウイルスに対する安全で効果の高い予防ワクチンや、有効な治療方法が十分に確立するまでは、皆で感染予防の徹底、即ち「新しい生活様式」を引き続き丁寧に実行することが非常に大切であると考えます。

その際には「自分が知らない間に感染していて、周囲の人にうつすかもしれない」と皆さんが常に自覚して行動することが重要です。

さて一方で、新型コロナウイルスの感染を恐れ過ぎても、私達の健康には不利益が出ます。

心身ともに健康であるためには十分な栄養摂取や休息・睡眠、適度な運動や社会的な人間同士の活動・交流等が大切ですが、感染を恐れるあまり外出を過剰に控えて自宅へ閉じこもり続けることで運動不足から筋力が低下し虚弱な状態となったり、そこから認知機能低下や抑鬱状態となる等、精神的・心理的に、更には免疫力まで弱くなる恐れもあります。

また、医療を受ける必要のある体調であるにも関わらず受診控えをしていると、元々の病状が悪化したり、あるいは別の病気の発見の遅れにつながる場合となることも懸念されます。

新型コロナウイルス感染予防への意識を高く持ち、そのための行動を取ることは大変重要ですが、その感染リスクをゼロにすることはできません。私達が生活していく中には、コロナ以外にも大切なことは沢山あります。このウイルスを正しく恐れることは必要ですが、恐れ過ぎてもいけません。

これからコロナと共に生きる生活へ向き合い方として「この新たな感染症とうまく付き合っていこう」という姿勢を持つことが、私達の毎日の生活の根幹となると思います。

この困難な時を、感染予防対策を引き続き継続しながら、皆で健やかに過ごしましょう。



COPD のセルフマネジメントについて

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 竹内 圭二郎



COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease) というものを聞いたことがありますか？

COPD とは慢性閉塞性肺疾患のことで、タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じた、肺の炎症性疾患です。

2001 年に発表された大規模な疫学調査研究の結果では、日本人の COPD 有病率は 8.6%、40 歳以上の約 530 万人が罹患しているといわれています。2025 年問題に向け、高齢者が増加し、今後は患者数・死亡数が増加すると予想されます。その中で、慢性の肺の病気である COPD をお持ちの患者さんに対しての退院支援は日々重要視されています。

入院当日より退院調整を行い、患者さんが生活の場に戻れるように携わる必要があります。COPD の増悪は患者さんの呼吸機能を低下させ、生命予後を悪化させることが特徴的で、患者さんの QOL(生命の質)を損ねる可能性があります。

COPD の管理目標の中に「増悪の予防」があります。看護師が患者教育をするだけではなく、患者さん自身のセルフマネジメント（自己管理能力）が、日々生活する上で欠かせないものになります。セルフマネジメント不足により増悪リスクが上がるといえます。

高齢で様々なご病気を併せ持つ患者さんが増えており、医療者はその患者さんに対して、その時「点」で看てしまうことがよくありますが、今後の生活イメージを含めた「線」で看護に携わっていき、個々に合わせたきめ細やかな看護を提供することが大切になってくると思います。

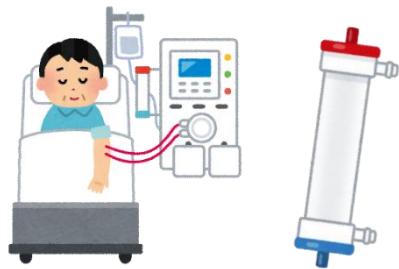
看護師は患者さんやそのご家族の身近な存在であり、医療的な視点、生活の視点を併せ持ち、患者家族のニーズを統合的に見ていく能力が求められています。

引用・参考文献

日本呼吸器学会（代表）西村政治（2013），COPD 診断と治療のガイドライン第 4 版（2014），一般社団法人日本呼吸器学会，日本

血液浄化センターについて

臨床工学科 臨床工学技士 高橋 和夫



血液浄化センターは何をするところ？

血液浄化センターは主に、慢性腎不全で腎臓の機能がほとんどなくなり、生命の維持ができなくなった方が、血液透析を行っているところです。

血液透析とは、自分の血液を機械で取り出しダイアラザーと呼ばれるフィルターに通して、本来腎臓で血液をろ過し、おしつことして排出される余分な水分や尿毒素物質を取り除き、また電解質の改善を行い体にもどす治療です。1回の治療は4時間、週3回が基本です。

当院では、血液透析だけではなく、病気の原因である異常高値のLDLコレステロールや白血球成分、血漿内の抗体などを取り除く治療の、LDLアフェレーシースや白血球除去、血漿交換などの治療も血液浄化センターで行っています。

当院施設の特徴

透析のベッド（機械）は10床です。入院中の血液透析患者さんのみで、通院の維持血液透析はおこなっていません。初めて血液透析を導入する場合は入院して血液透析を行います。退院後は血液透析専門のクリニックに通院しています。その後、入院が必要な検査や手術を含めた治療などが必要なときには、入院して検査、治療を行っていきます。血液透析は週3回必ず行わなければならぬために、血液透析患者さんが入院した場合は血液浄化センターで週3回血液透析を行っていきます。

また、慢性腎不全で将来透析が必要になりそうな患者さんへ事前に血液透析、腹膜透析、腎移植についての腎代替療法説明を行い、患者さんの生活にあった腎代替療法と一緒に考えたり、透析導入後には日常生活の注意点や合併症への注意などの透析教育も行っています。

血液浄化センターはチーム医療

血液浄化センターのスタッフは日本透析医学会認定透析専門医や腹膜透析認定指導看護師、透析技術認定士などの資格も持つ腎臓内科医、看護師、臨床工学技士を中心にチームを組み、より患者さんに寄り添った透析治療、血液浄化センターを心がけています。



健やかインフォメーション

～with コロナを健やかに過ごす～



メディアスチャンネル（地上デジタル12CH）にて、「健やかインフォメーション～Withコロナを健やかに過ごす～」が以下の日程で放送されます。番組内では当院の医師・看護師より、コロナ禍において日常で気を付けるべきこと等を紹介していますので、ぜひご覧ください。知多メディアのホームページ、当院のホームページからもご覧いただけます。放送内容は毎月変わります。



2020年10月～2021年3月放送

月曜日	10：55～	金曜日	12：25～
火曜日	23：40～	土曜日	22：55～
水曜日	12：25～	日曜日	18：55～
木曜日	14：20～		※各回5分間の放送です。

～ 基本理念 ～

私たちは、知多半島医療圏の北西部地域における中核病院としての使命を果たすため、次のとおり基本理念を定めます。

- 1 地域の皆さんとともに育む、心のこもったあたたかい病院を目指します。
- 2 質の高い医療を提供する、信頼される病院を目指します。
- 3 地域医療の担い手として、安心して暮らせるまちづくりに貢献します

～ 基本方針 ～

- 1 患者さんの生命と人権を尊重し、安心安全な医療を提供します。
- 2 地域の基幹病院として、救急医療と急性期医療の充実に努めます。
- 3 地域の医療機関や保健・福祉機関と連携し、地域住民の健康増進を図ります。
- 4 教育と研修により、医療技術の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます。
- 5 職員がやりがいを持ち、安心して働くことができる環境を整えます。
- 6 健全な病院経営に努めます。



公立西知多総合病院だより 第21号

2021年1月発行 編集：広報図書委員会 発行：公立西知多総合病院